

# 胃がん手術 生中継

徳島大学病院は31日、腹腔鏡手術の第一人者を招いて手術の様子を公開し、実況映像を県立三好病院と美波町立日和佐病院に配信した。内視鏡による高度医療を医学生や遠隔地の外科医らに見てもらい、技術向上につなげるのが目的で、四国の医療機関では初の試み。

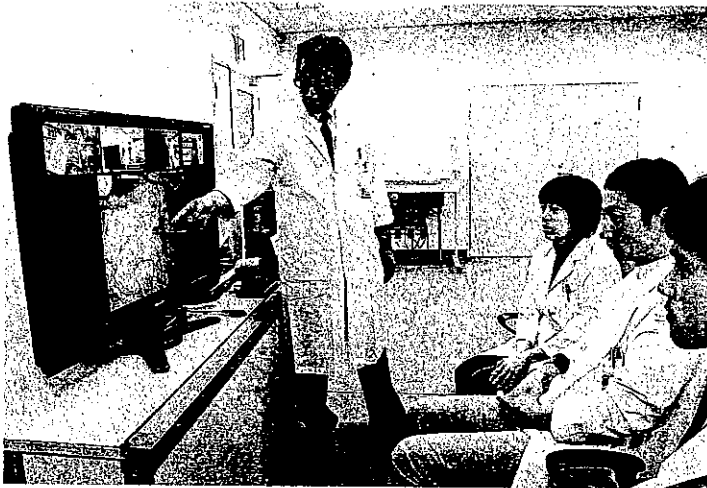
## 徳島大病院から三好・日和佐へ

癌研究会有明病院（東京）の比企直樹消化器外科医長の指導のもと、徳島大病院の吉川幸造医師が手術を担当し、初期の胃がんの60代男性を治療。3病院で計約40人の医療関係者が手術を見守った。

手術は腹部の数カ所に10ミリの前後の穴を開け、先端にカメラの付いた腹腔鏡と鉗子を挿入。モニターを見ながら慎重に操作し、約6時間かけて胃の一部や転移の恐れがある周囲のリンパ節を切除した。映像を見守る外科医らと質疑応答も行った。

腹腔鏡手術は出血が少なく傷も残りにくいなど、開腹手術に比べて患者の負担は小さいが、目視できないため高度な技術が求められる。徳島大病院は手術映像

## 遠隔地の外科医ら 技術向上図る



腹腔鏡手術の様子をモニターで見守る外科医ら  
—徳島大学病院

を中継する技術を発展させ、医師不足に悩む地方での遠隔地医療の充実につなげたいと考えた。

手術を見守った徳島大医学部の前川達哉さん(23)は

「外科医を目指しているのが非常に勉強になった」。三好病院の東島潤医師(35)は「映像が美しく、音声もはっきりしていた。このシステムを使えば地方でも専門医の指示を受けられ、手術の質が高まるだけでなく、治療の相談などにも使える」と期待した。

（平尾貴宏、青木寛倫）